

はじめに

私たちは今少子高齢化や家族の多様化、地震や水害による被害、孤独化、子どもの貧困、認知症高齢者の増加、労働者減少、グローバル化などさまざまな問題に直面しています。抱える福祉ニーズは多様化・深刻化し増えていく一方です。既存の制度・サービスだけでは、制度と制度やサービスとサービスの狭間に落ちてしまう人が多く、対応することが難しくなっています。

社会福祉の活動は、常に制度や公的活動が先にあつてスタートするものではなく、先人によって開拓され、常に実践の中で発展し方向づけられてきました。先人は行政より先に、さまざまな生活の苦しみに悩む人々と向き合い、共に生きることに、自らの使命感と情熱を燃やしてきたという歴史があります。

今ある制度に当てはめるだけでは、課題の解決につながりません。制度にとらわれず、社会福祉のサービスを受ける側に立ち、その人たちと向き合つて必要な資源を開発し社会変革を促すことが、多くの福祉課題を抱えた今の時代に求められていると感じます。

社会福祉を考えるためには、制度だけではなくすべてが見えてきません。社会的思想にも大きく左右されてきました。時代の流れや人々の生活、受け継がれる歴史と、社会的思想などを合わせて見ていくことで、制度やサービスの成り立ちが見えてきます。新たな時代の福祉課題に取り組むために、改めて先人の実践を知り考えることを通して、歴史から学ぶ意味について改めて考えてみてほしいと思います。

編者 川崎 順子

辻尾 朋子

荻田 藍子

歴史との対話
— 現代福祉の源流を探る —

目
次

はじめに..... i

序 章 社会福祉における歴史学習の重要性..... 1

一. なぜ、社会福祉学習において歴史が軽視されるようになったのか..... 2

(一) 厚生労働省が医療と福祉を合わせて所管している制度的問題..... 2

(二) ソーシャルワーカーの資格が国家試験であることの問題..... 3

二. なぜ、社会福祉学習に歴史が欠かせないのか..... 4

(一) 過去を知らない者は現在と未来を理解できない..... 4

(二) 歴史の学習とは、福祉の先覚者と対話することである..... 6

(三) 歴史学者がソーシャルワーカーのアイデンティティを育む..... 8

(四) 福祉国家の歴史とともに歩むソーシャルワーカー..... 9

第一章 社会福祉の歴史を辿ろう..... 11

一. 日本の歴史から..... 12

(一) 古代国家と救済事業..... 12

(二) 前期封建社会..... 14

(三) 後期封建社会（江戸時代）..... 17

(四) 近世（明治、大正、昭和初期Ⅱ第二次世界大戦終戦まで）..... 21

二. 世界の歴史から..... 42

留岡 幸助	82
野口 幽香	80
小橋 勝之助	78
石井 十次	76
片山 潜	74
志賀 志那人	72
賀川 豊彦	70
大原 孫三郎	68
小河 滋次郎	66
渋沢 栄一	64
佐々木 五三郎	62
佐藤 信淵	60
一. 日本の先人たち	60
第二章 先人たちの足跡をたどる
(一) イギリス	42
(二) アメリカ	46
(三) スウェーデン	50
(四) デンマーク	54

間人 たね子	84
糸賀 一雄	86
石井 亮一	88
石井 筆子	90
寺島 信恵	92
岩田 民次郎	94
笠井 信一	96
林 市蔵	98
田村 新吉	100
中村 三徳	102
林 歌子	104
城 ノブ	106
神谷 美恵子	108
英国・米国の先人たち	114
オクタヴィア・ヒル	114
ウエツプ夫妻	116
アーノルド・トインビー&バーネット夫妻	118
トマス・チャルマーズ	120
トーマス・ギルバート	122

ベンジャミン・シーボーム・ラウントリ
124
トーマス・ジョン・バーナード
126
フロレンス・ナイチンゲール
128
メアリー・リッチモンド
130
ジェーン・アダムズ
132

第三章 今日思想風潮と社会福祉

一. 新自由主義 (neo liberalism) 批判 (社会福祉の視点から) 138
 (一) 新自由主義とは 138
 (二) 社会福祉への影響 140
二. グローバル化とローカリティの陥穽 145
 (一) 社会福祉の「グローバル化」論批判 145
 (二) 社会福祉のローカリズムの陥穽 160
三. パターナリズムとエンパワーメント批判 170
四. ソーシャルインクルージングの条件 173
 (一) ソーシャルインクルージョンの理念と目標 173
 (二) ソーシャルインクルージョンへの接近 174
 (三) ソーシャルインクルージングの思想は、他の思想を統合化したもの 175

終章 結語

- (一) 歴史教育は、先人の遺産を引き継ぐ教育である 182
- (二) 救済や保護事業の社会背景を理解する 183
- (三) 先人個々人の信念と業績を読み解く 186
- (四) 戦後日本の社会福祉を動かした理論と思想 187

編集後記

執筆者一覧